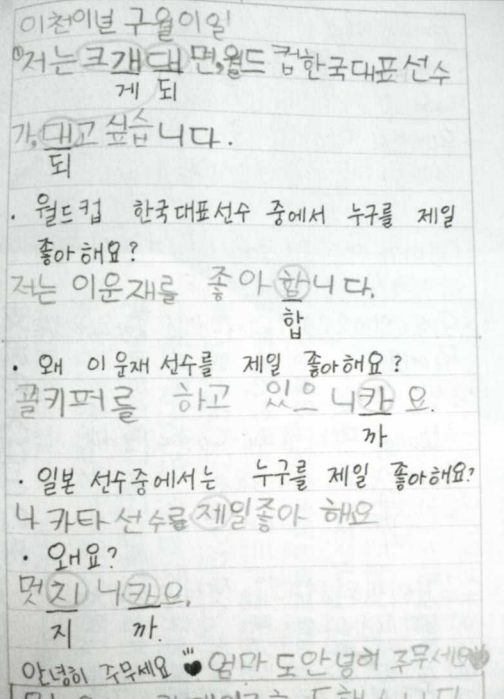
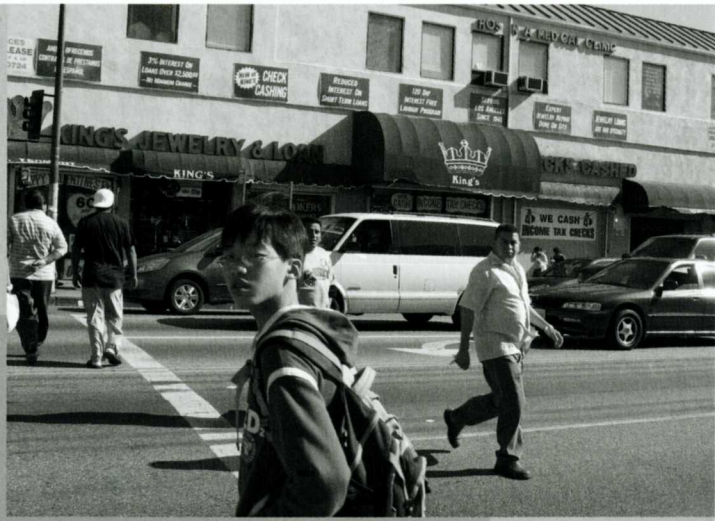


韓国では1歳の誕生日を「トル」という。民族衣装で着飾って一生に残る記念写真を撮る



アメリカのロスアンゼルスで。ここはメキシコからの人たちが
多い。でも、みんなアメリカを自分の国だと思っているらしい



小さいころから母と韓国語を勉強している。
ノートに韓国語でチャットをしながら
読み書きの勉強をしている

学校の野球部の
友達と一緒に(右端)



外国人 として 生きる

僕のこと

ハン チェドン

大阪教育大学附属池田中学校

韓国人として生まれて

僕は大阪府に住んでいる中学校三年生の男子だ。生まれも育ちも日本だから、韓国の文化や習慣のことはあまり知る機会がない。僕の両親は生まれも育ちも韓国なので、日本文化のエッセンスが入った僕とは、ときどき衝突する。例えば、日本の子どもは親に対してことは遣いにあまり気を付けないが、韓国は儒教の影響もあってか、親に限らず目上の人には礼儀を尽くさないといけない。それで親は僕に不満らしい。

話しかわるが、親によく「大人になったらどこに住むつもりなの？」と聞かれる。大阪が東京か、という狭い話ではなく、韓国か日本か、という国際的な話である。僕は「日本に住む」といつも答えている。しかし、よくよく考えてみると、果たして日本が僕のような外国人にとって、本当に住みやすい国なのか、また疑問に思う部分がある。例えば、日本に長く住んでいても外国人には選挙権がない。自分が安心して政治を任せられる人を自分の意志で選ぶ事ができないことは、辛いと思う。

それでも僕にとって日本はとても住みやすいところである。しかし親にとってはあまりそうではないらしく、アメリカに住む、ということも考えているらしい。アメリカには、ときどき行くのだが、正直

言っただけ程外国人にとっても住みやすい国はないと思う。何でも自由にできよう。実際、僕の親戚はたくさんアメリカに住んでいるのだが、それを見てみると僕もアメリカに行くって大きいことをやってみたい、と思うこともある。アメリカに限らず、僕が何も知らない場所に行つて技術が発達しているが、貧しい国ではどうなのか、何故紛争が起きるのかなども知りたい。そんなことを僕は中学三年生なりに考えているけど、やっぱり僕には日本がいちばん住みやすい気がする。日本には友達が多いし、何より日本に住み慣れたのがその理由だ。

韓国名へのこだわり

僕は将来、日本国籍をとるつもりだが、名前は韓国名のままにするつもりだ。それは、僕の将来の夢が検事になることで、そのほかにもいろんな面で楽であろうし、一方で、自分が韓国人であるという形跡を残しておきたいのが理由だ。

学校で、友達には普通に接してくれ。日本語が流暢だったためなのか、韓国人ではなく名前がめずらしい日本人に見られることがよくあった。要するに僕は文化が同じだ。僕が韓国人であることを言っても特に友達の様子に変わりはしない。

僕としての韓国語

それでも、小学校のころ自分が韓国名であることが嫌だった。今から考えてみると、低学年のころ名前が変だという理由でしつこくからかわれたことがあった。小学生の低学年が他人の名前をからかうことなんてしょっちゅうあるが、僕は「日本人から見れば僕の韓国の名前が変だからからかうのだ」と解釈をしていたようだ。そのせいで今もときどき、僕の名前を紹介すると、「この人は自分と対等につきあってくれないのでは？」と思うことがある。それが災いしてか、体は大きいくせに、他人がすることを人影に隠れてすつと見ていた。小学校の卒業式や中学校の入学式は、自分にとっては嫌な行事だった。僕の名前が人前で読まれると「あいつの名前はおかしい」と他の生徒の失笑を誘うのではないかと、びくびくしていた。

そんな性格が大きく変わったのは中学二年生の総合学習のときだった。僕の中学校は、国際教育にとっても熱心で、たくさんの外国人の講師が教えにいられた。自分の名前や、日本人からすれば一見おかしく見える母国の習慣を堂々と胸を張って説明する講師の方々を見ると、僕が今まで自分の名前に抱いていた気持ち馬鹿らしく思えてきた。おかげで何よりも中学校の卒業式を安心して迎えられるそう。

韓国語は小さいころから母が熱心に教えてくれた。韓国語が僕の将来に役に立つと思つたのだろう。実際のところ、家では家族で韓国語を話すことが多い。あまり外で韓国語を喋る機会がないが、友達に韓国人であることを言うと必ずといっていいほど聞かれることがふたつある。ひとつは「韓国語を喋ってくれ」、もうひとつは「辛いものは結構食べられるのか？」である。韓国語を喋って、と頼まれたときは、とりあえず思いついたことを喋ると喜んでくれる。なかには韓国語の悪態を中心に聞いてくる友達もいる。どちらにしろ僕にとって友達が韓国の言語や文化に熱中してくれることは嬉しい。そんな友達への満足そうな顔を見ると韓国の文化を教える職についていいな、とも思う。韓国語と日本語が話せることは僕にとってはたいしたことではないが、他の人から見るとすごいことらしい。僕にとって韓国語は初対面のひととの距離を縮めてくれる役目を担っている。

最後に僕が日本で生きてきて大事であると思つたことをまとめてみた。まず、他人と違つていてもそのなかでそれぞれ価値観を見出すことができること、そして他人と違うものをもつていても、それを自分なりに表現することである。